

令和7年度 全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立加納中学校

はじめにお読みください。

<調査の結果をご覧になる方へ>

各中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。

今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

(1) 各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。

(2) 埼玉県学力・学習状況調査は、特に生徒の伸びを見ることができる調査となっております。

平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。

(3) 本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

(4) 桶川市ホームページ内にて、桶川市の結果概要等が掲載されていますのでご覧ください。

URL: <https://www.city.okegawa.lg.jp/soshiki/kyoiku/gakkoushien/oshirase/about/1446.html>



<全国学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度 全国学力・学習状況調査に関する実施要領」(文部科学省)より抜粋

1 調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査対象

中学校第3学年、原則として全生徒

3 調査実施日

令和7年4月17日(木)

4 調査の内容

(国語、数学、英語) 教科に関する調査	・中学校調査は、国語、数学、理科とする。 ・出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし、出題内容は、それぞれの学年・教科に関し、以下のとおりとする。 ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 ・調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定割合で導入する。 ・理科については1人1台端末を使って問題配付され、解答をする。	
	【中学校 国語・数学・理科 各50分】	
生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査	児童生徒に対する調査	学校に対する調査
	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間、家庭学習の状況など 【20分程度】	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 学力向上に向けた取組、指導方法の工夫、教育の情報化、教員研修、家庭・地域との連携の状況など

本校の調査結果の概況

中学校

＜教科に関する調査＞

は全国平均正答率を上回ったもの



国語									
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)	学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
言葉の特徴や使い方に關する事項	2	53.5	48.5	48.1	話すこと・聞くこと	4	51.3	54.3	53.2
情報の扱い方に關する事項	0				書くこと	5	54.8	53.7	52.8
我が国の言語文化に關する事項	0				読むこと	3	64.0	63.6	62.3

数学				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率 (%)	県平均正答率 (%)	全国平均正答率 (%)
数と式	5	40.6	45.0	43.5
図形	4	42.5	48.7	46.5
関数	3	38.3	48.8	48.2
データの活用	3	53.7	60.2	58.6

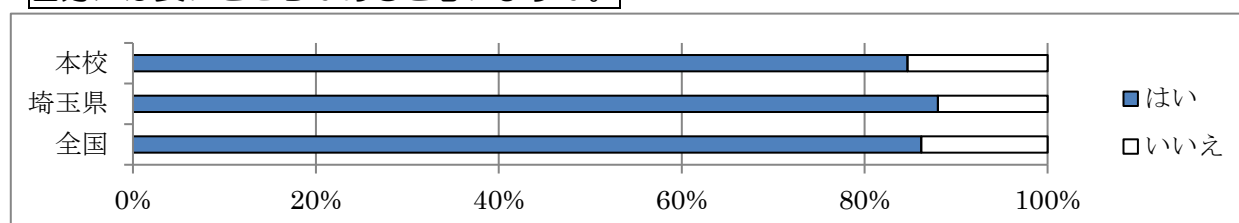
理科（公開されている問題のみについて）				
大問題	設問数	本校平均正答数	県平均正答数	全国平均正答数
【1】	6	3.1	2.9	2.9
【2】【9】	4		2.0	2.0
【5】【8】	4	1.9	1.9	1.9
【3】【6】	4		2.3	2.3
【4】【7】	4		2.3	2.3

＜生徒への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

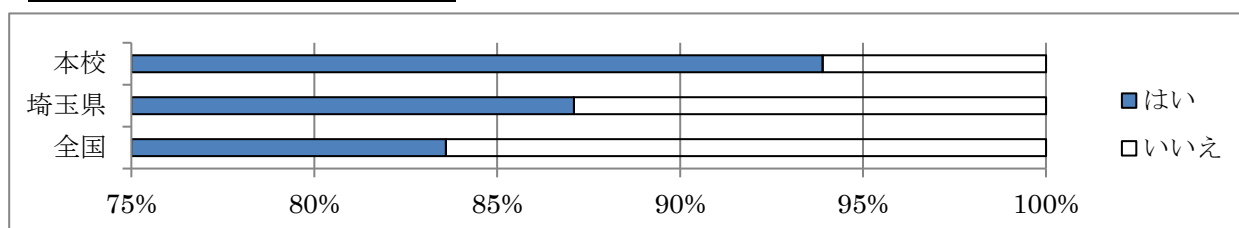
はい…そう思う、どちらかといえばそう思う

いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

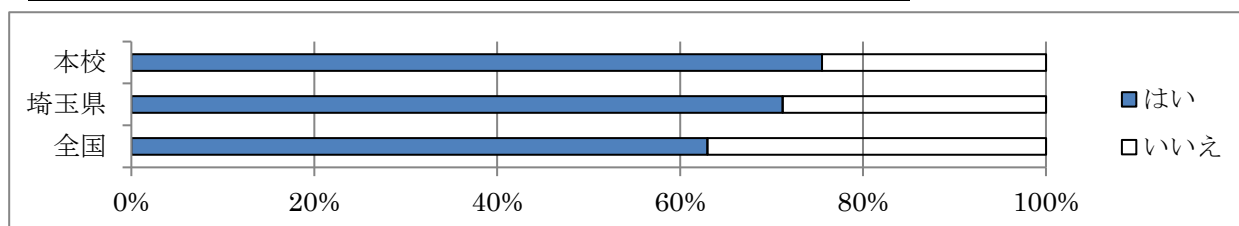
自分には良いところがあると思いますか。



あなたは自分が PC・タブレットなどの ICT 機器で文章を作成する（文字・コメントを書くなど）ことができると思いますか。



1，2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。



本校の調査結果の分析・考察

<国 語>

【分析の概要】

今年度の全国学力・学習状況調査の結果を見ると、4 領域のうち 3 領域が全国平均・県平均を上回った。特に「言葉の特徴や使い方に関する事項」の領域では、全国平均から 5.4 ポイントも上回っている。身近な漢字や語句について、学年が上がるごとに身に付けていった様子が見えてくる。また、「書くこと」の領域では 2.0 ポイント、「読むこと」の領域では 1.7 ポイント上回っている。一方、「話すこと・聞くこと」の領域は、1.9 ポイント下回っている。「プレゼンテーション」においての効果的な発表のしかた」を改めて確認させておいた方がよいと思われる。

【問題 1三】

問題

ちらしの中の情報について、示す位置を変えた意図を説明したものとして適切なものを選択する。

（書く内容の中心が明確になるように、内容のまとまりを意識して文章の構成や展開を考えることができるかどうかをみる問題）

全国平均 63.3%
県平均 64.1%
本校 70.0%

<成果が上がった要因>

1 年生の時から、あらゆる単元でのいろいろな場面で書く機会があった結果だと思われる。「説明文を読んだ感想」や「物語のつづきを考える」、「筆者に対しての自分の意見を述べる」など自分の気持ちを素直に表すことに慣れていて、どう伝えたら相手にうまく伝わるかをしっかり考えられた結果であろう。

【問題 2二】

問題

手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する。

（読み手の立場に立って表記を確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる問題）

全国平均 57.3%
県平均 57.3%
本校 51.0%

<成果が表れていない要因>

「手紙の書き方」を学習するのは 2 年生の時である。しかし、実際に手紙を書く機会もほとんどなく、その形式さえもあまり理解していないのが現状であろう。また、基本的な「漢字の読み・書き」も十分に習得しているとは言い切れない。

<改善策>

普段から身の回りの「国語に関するもの」に触れさせながら、指導を行っていくべきだと思われる。

<数 学>

【分析の概要】

正答数の分布は、中央値は7／15問で、県・全国平均と同じである。第3四分位は9／15問（県・全国平均は11／15問）、第1四分位は3／15問（県・全国平均は4／15問）で全体的に正答率が低い傾向がうかがえる。また、正答数が0～4問の分布が多く、12～15問の分布が少ない。

県・全国で正答率が30％前後の問題では、本校でも同程度の正答率を示している問題もある。記述式の問題では無解答率が高い傾向にある。また、「関数」の領域では県・全国平均を大きく下回っていて定着を図る必要がある。

【問題】

【問題】

https://www.nier.go.jp/25chousa/pdf/25mondai_chuu_suugaku.pdf

7 (1)

(概要)

Aの手元のカードが3枚とも「グー」、Bの手元のカードが3枚とも「チョキ」でじゃんけんカードゲームの1回目を行うとき、1回目にAが勝つ確率を書く。

正答 1

本校正答率 78.0%

全国正答率 77.4%

<成果が上がった要因>

必ず起こる事柄の確率について、実生活に馴染みのある問題で生徒の関心を引きつけながら扱いました。

4

一次関数 $y = 6x + 5$ の変化の割合は6です。この一次関数について、 x の増加量が2のときの y の増加量を求めなさい。

正答 12

本校正答率 15.0%

全国正答率 34.7%

<成果が表れていない要因>

「17」と誤答 本校誤答率 34.0%

y の値と y の増加量との違いが定着していないことが要因だと考えられます。

<改善策>

関数の領域においては、「表」「式」「グラフ」を関連付けて丁寧に扱っていきます。また、基礎・基本の定着を図るため、問題演習の時間を確保していきます。

<理 科>

【分析の概要】

全体的に正答率は低いものの、無回答が低いため、問題に取り組む意欲はあると考えられる。エネルギー領域が苦手であり、4/5の割合で県平均より下であった。生命領域は取り組みやすいのか、県平均より数値は高かった。地学をはじめとして、文章の読み取り、すでに学んでいる知識と合わせて考えられていなかった。さらに、実験の無かった部分の問題は正答率が低かった。今後はできるだけ実物に触れさせることや生活との関連を示すこと、特に地学の問題に関しては、知識だけでは解くことが難しく、問題の解き方を教え、実際に授業の中で演習問題を繰り返し解くことが必要である。さらに、じっくり問題に取り組む態度を養う必要がある。

【問題】

https://www.nier.go.jp/25chousa/pdf/25mondai_chuu_rika.pdf

問題 1 (6)

(概要) 水をテーマに科学的に探究する問題
水道水、精製水についての探求をまとめたものを他者が発表する学習場面において、探求から独自の疑問や振り返りを表現できるか。

(正答) 次の (a) と (b) ～ (e) のいずれかを満たしているもの

(a) 水道水や精製水に対して振り返る表現となっている。

(b) Bさんの視点を参考に、疑問に感じたことや、調べてみたいことを記述している。

(c) Cさんの視点を参考に、はじめの考えから考えが変化したことを記述している。

(d) Dさんの視点を参考に、身近な生活とのつながりについて感じたことを記述している。

(e) Bさん、Cさん、Dさん以外の視点で記述している。

本校正答率 82.8%

全国正答率 79.4%

<成果が表れている要因>

他の人の意見を参考にしながら考えを話し合う時間を授業に多く取り入れ、他の人の意見を参考にして自分の意見をブラッシュアップする時間を積極的に導入した。

【問題】

https://www.nier.go.jp/25chousa/pdf/25mondai_chuu_rika.pdf

問題 5 (2)

(概要) 化学変化に関する実験の結果を分析し、異なる化学変化を、原子や分子のモデルで表すことができるか。

(正答) 以下のいずれかを満たしているもの
(a) 物質を正しく原子や分子のモデルで表し、化学変化の前後で原子の種類と数が変化していない。かつ、モデルの数は、最も簡単な整数比で表されている。

(b) 物質を正しく原子や分子のモデルで表し、化学変化の前後で原子の種類と数が変化していない。しかし、モデルの数は、最も簡単な整数比で表されていない。

本校正答率 31.2%

全国正答率 35.6%

<成果が表れていない要因>

生徒は自分が経験した実験等に関する知識は定着している傾向があるものの、教科書を読み、写真を見るだけでは定着に結び付かなかったと考えられる。さらに、基本的な知識を活用して応用問題を解くことが難しい。

<改善策>

関連する実験の演示を行うなど、時間がない中でもできる限り授業中に実物に触れさせることや、今までの知識から実験結果を予想させる時間を捻出する。

<埼玉県学力・学習状況調査の概要>

※「令和7年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

1 調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）

<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html>

2 調査対象

中学校第1・2・3学年 原則として全生徒

3 調査実施日

令和7年5月8日（木）

4 調査の内容

（1）教科に関する調査

中学校第1学年 国語、数学 第2学年、第3学年 国語、数学、英語

※ 学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（2）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

本校の調査結果の概況

<教科に関する調査> は県平均正答率を上回ったもの

※学力の伸びた生徒の割合…前年度から学力が伸びた生徒の全体に対する割合

↑↑↑↑↑=80%以上、↑↑↑↑=70%以上80%未満、↑↑↑=60%以上70%未満、↑↑=50%以上60%未満、↑=50%未満

国語	第1学年			第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
言葉の特徴や使い方	14	67.4	65.3	13	60.7	60.4	11	55.3	55.4
情報の扱い方、我が国の言語文化	4	69.4	67.4	7	47.2	43.8	8	60.4	63.6
話すこと・聞くこと・書くこと	4	63.3	59.3	4	66.3	65.0	4	50.8	53.0
読むこと	8	60.7	56.8	7	47.1	48.5	8	53.9	54.7
※学力の伸びた児童の割合		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑↑	↑↑↑↑

※学力が伸びた生徒の割合

87.3%

71.7%

77.4%

数学	第1学年			第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	10	59.6	58.2	11	55.1	56.3	11	54.6	60.0
図形	10	55.9	52.0	8	43.0	42.2	8	42.2	49.7
1年変化と関係2, 3年関数	8	51.1	49.4	7	52.8	54.0	8	48.0	52.8
データの活用	5	48.8	43.9	7	56.9	52.1	6	53.5	64.9
※学力の伸びた児童の割合		↑↑↑	↑↑↑		↑↑↑↑↑	↑↑↑↑↑		↑↑	↑↑↑

※学力が伸びた生徒の割合

63.6%

82.1%

54.8%

英語	第2学年			第3学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
聞くこと	10	71.9	73.6	10	50.6	55.8
読むこと	15	55.8	59.4	19	55.3	57.2
話すこと	2	21.0	18.5	2	14.1	12.5
書くこと	9	54.2	55.7	5	34.4	37.0
※学力の伸びた生徒の割合					↑↑↑↑	↑↑↑↑↑

※学力が伸びた生徒の割合

78.0%

＜生徒への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※ 達成率：「できる」「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：県の達成率、下段：本校の達成率、 は80%以上（%）

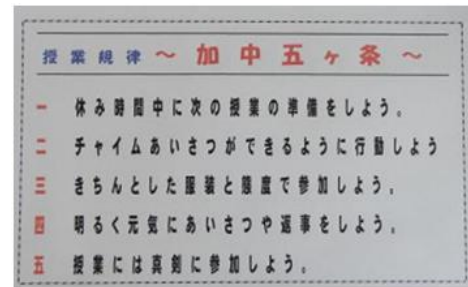
内容	項目	第1学年	第2学年	第3学年
○けじめある生活ができる	1 時刻を守る			
	① 登校時刻	97.7 98.2	96.6 95.5	96.1 93.8
	② 授業の開始時刻	96.6 93.6	97.4 98.2	97.7 97.9
	2 身の回りの整理整頓をする			
	③ 靴そろえ	89.6 81.8	91.6 84.8	93.1 94.8
	④ 整理整頓	72.6 57.3	74.8 70.5	74.9 78.1
○礼儀正しく人と接することができる	3 進んで挨拶や返事をする			
	⑤ あいさつ	88.1 83.6	88.1 90.2	87.5 83.3
	⑥ 返事	94.8 93.6	94.9 99.1	95.3 91.7
	4 ていねいな言葉づかいを身につける			
	⑦ ていねいな言葉づかい	91.7 93.6	92.8 93.8	93.9 94.8
	⑧ やさしい言葉づかい	89.5 87.3	90.9 93.3	90.8 89.6
○約束やきまりを守ることができる	5 学習の決まりを守る			
	⑨ 学習準備	92.8 89.1	93.6 95.5	94.3 95.8
	⑩ 話を聞き発表する	83.4 84.5	83.3 83.9	85.4 85.4
	6 生活のきまりを守る			
	⑪ 集団の場での態度	92.0 89.1	93.1 94.6	94.8 91.7
	⑫ 掃除・美化活動	87.7 84.5	88.0 87.5	89.2 88.5

本校の学力向上の取組

授業における取組

★1 授業規律の明確化

- (1) 教師と生徒が共通してそして各学年が授業の3分前着席に取り組んでいます。チャイムの開始と同時にあいさつを行い、授業に集中して取り組むようにしています。
- (2) 『加中五ヶ条』を全教室に掲示し、授業規律の向上に取り組んでいます。委員会活動の1つとして授業の質を上げるためのキャンペーンに取り組んでいます。



★2 加納中型授業スタイルの確立

- (1) 各教科で授業の目標やねらいを明確化し、つながりのある授業を行うことで、生徒が授業で学ぶ内容について見通しをもたせる取組を継続しています。
- (2) 授業の終わりに振り返りの時間を設け学習内容の理解や疑問点など確認します。

■3 「学び合いの活動」の充実

日々の授業の中にグループでの話し合い活動、思考ツール（考えの流れを見るための道具）の活用など、生徒が主体となる活動を取り入れ「学び合いの活動」を行っています。

■4 タブレットパソコン、電子黒板などICT機器の充実

学習意欲の向上・「学び合いの活動」の効率化を図るICT機器を、学習のねらいに応じて活用しています。また、「デジタルドリル」を導入し、基礎学力の向上と学習習慣の確立を図っています。

授業以外の取組

★1 「時」「場」「礼」の生徒指導共通目標の推進（小学校との連携）

「時を守り、場を清め、礼を正す」を教師と生徒の共通目標として常日頃から取り組んでいます。

■2 朝読書の取り組み

朝の会の前10分間を読書の時間とし、本に親しむ時間とするとともに、落ち着いて授業を受ける状態を作っています。

■3 家庭学習の習慣化

家庭学習の習慣化を図るため、宿題や課題プリントの提出、また家庭学習ノートを作成して自主的に取り組ませるなど、習慣化に向けた取り組みを行っています。

★4 補習の取り組み

定期テスト前には教科の質問や補習の時間を設定しています。

★5 加納中学校区の加納小、桶川東小との連携

小学校に出向いてのあいさつ運動、小学6年生の中学校授業見学など、小・中連携を通じて「学力向上」に向けた実践をしています。

★6 校内掲示・展示の充実

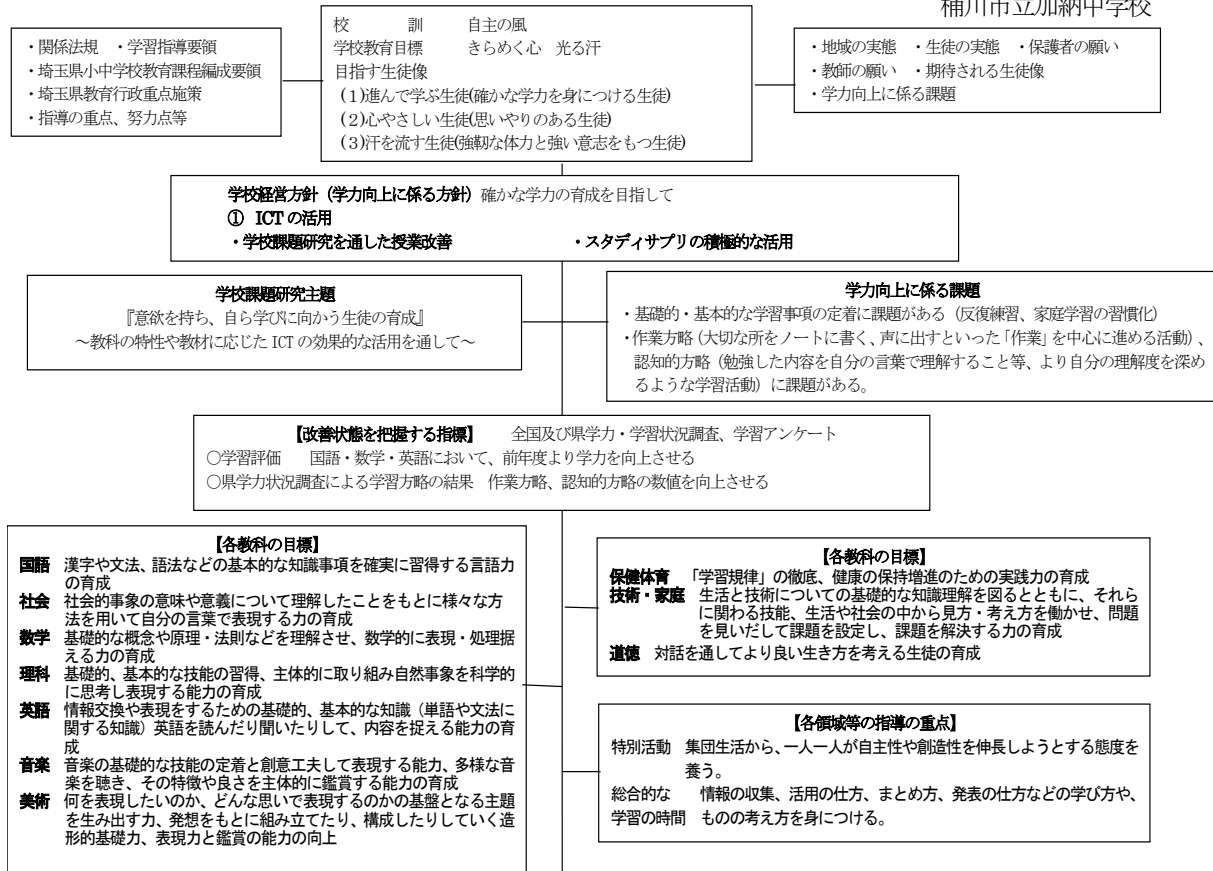
様々な活動の意欲を喚起したり、心に潤いをもたせるような生徒の優れた作品や取り組みの掲示・展示等を充実させたりしています。

★…成果を上げたと考えられる取組、 ■…課題を解決するための取組

本校の学力向上プラン

令和7年度 学力向上全体計画

桶川市立加納中学校



改善の観点(具体的な取組)

	I	II	III	IV	V	VI	VII
改善の観点	指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	新教育課程への対応の工夫	学習評価活動の工夫	校内研修計画の実施と工夫	学校評価・検証の計画と実施	家庭や地域社会との連携の工夫
取組の基本方針	基礎的・基本的な知識・技能の定着と主体的な学びの研究に努める。	新学習指導要領を視野に入れた教育課程の編成に努める。	先行実施される内容に重点を置いた指導計画の立案とその実施に努める。	各教科の評価規準を明確にし、適正な評価に努める。	具体的に取り組む内容を明確にした上で、着実に実践し、検証を行う。	学校評価を生かし、根本的なことを重視すると共に、多面的で計画的、継続的な学校運営を目指す。	学校だよりや学年だより等の計画的、継続的な発行により本校の教育方針の啓発に努める。
課題解決のための具体的な取組	○1単位時間の授業における工夫改善 ○協調学習等を取り入れた授業改善の取組 ○補習の実施 ○長期休業明けの確認テストの実施 ○校内実力テスト(年2回)実施と分析 ○授業改善アンケートの実施	○研究主題「意欲を持ち、自ら学びに向かう生徒の育成」特に主体的に学ぶ姿を想定した指導計画の立案 ○総合的な学習の時間の指導計画の見直し ○道徳科への対応(授業・評価等の研究)	○教科横断的な知識技能の活用を意識した指導計画の作成 ○学び合いの有効活用 ○体験活動を積極的に取り入れた授業の取組	○授業後の振り返りや自己評価の方法の工夫改善 ○定期テスト後の振り返りを活用した学習目標の設定	○PDCAサイクルに沿った授業改善の取組 ○「分析支援プログラム」を用いた取組の検証と課題の設定 ○先行研究の検証 ○学習指導を中心に、他分野の実践研修の積極的実施	○学校評価の2回実施 ○保護者アンケートの実施 ○生徒の学校生活に関する意識調査の実施 ○学校運営協議会 ○県学力学習状況調査等の分析	○成績個表、通知表の見直しと改善 ○定期テスト後の振り返り ○宿題の出し方の工夫と家庭学習ノートを活用した家庭学習習慣の形成
関連する行事等	・朝読書と朝学習 ・学力向上推進担当訪問での研究、公開授業 ・校内授業見学	・シラバス(加中の学び) ・ホームページ	・シラバス(加中の学び) ・ホームページ	・シラバス(加中の学び) ・ホームページ	・学力向上推進担当訪問での研究、公開授業 ・校内授業参観週間	・PTA総会 ・コミュニティスクール ・学年、学級懇談 ・学校公開 ・授業参観 ・学校だより	・学校公開 ・授業参観 ・PTA総会 ・家庭訪問、三者面談 ・学校、学年だより ・学校ボランティア

各教科学力向上プラン

保護者・地域の皆様へ

本校では、令和5年度から3年間、「意欲を持ち、自ら学びに向かう生徒の育成」を研究テーマに掲げ、サブテーマを「教科の特性や教材に応じた ICT 機器の効果的な活用を通して」として、ICTを活用した各教科の授業改善に取り組んでいます。特に令和3年度から本格的に導入されたタブレットなどのICT機器をより有効的に授業で活用するため、ICTを活用した授業実践・学力向上にもさらに取り組んでいます。特に生徒自身で振り返りを行う場面を増やし、他者と参照することで学びを深める場면을積極的に設定しました。今回の質問紙調査では、『授業の終わりに、授業で学んだことを振り返り、自分でわかったことやわからなかったことを自覚したこと』という問いに対して、「よくあった」と答えた生徒が、埼玉県が31.3%に対して、加納中は42.7%であり、『授業を通して学んだ内容について、さらに詳しく知りたい、学びたいと思ったこと』という問いに対して、「よくあった」と答えた生徒が、埼玉県が25.9%に対して、加納中は35.4%と県を上回りました。ICTの有効活用を通して、生徒の学ぶ意欲の向上に繋がっています。研究は本年度で終了しましたが、引き続き、ICTの活用を通して『自ら学びに向かう生徒の育成』の実現に向け、今後も授業改善に取り組んでいきます。

また、学習環境を整えるための取り組みとして、授業開始3分前には着席し、チャイムで授業を始める「チャイムあいさつ」を励行しています。中央委員が中心となり声掛けを行っています。学習規律が整うことで授業に集中でき、話し合いの活動における学習効果が高まります。さらに、本校でも、より授業に集中しやすくなるよう教室前面の掲示物を必要最小限にとどめ、不必要な情報が入らないようにして、より授業に集中しやすくなるよう教室掲示を工夫し、カバンなどの用具はロッカーにしまい、机には掛けないようにする、清掃活動を徹底して行うなど、学習環境が整った状態で授業を行うように努めてまいりました。

さらに、学校で習った学習内容を定着させ、それぞれの思考・判断に生かせるようにするには、家庭学習が欠かせません。「デジタルドリル」を活用して、さらなる学力の向上のために、宿題だけでなく個々の課題に合わせた学習の支援が行える体制を整えてまいりました。ご家庭でも、ご支援・ご協力をお願いいたします。

今後も、意欲をもち、自ら学びに向かう生徒の育成を目指して日々の教育活動と授業改善に力を入れて取り組んでいきます。